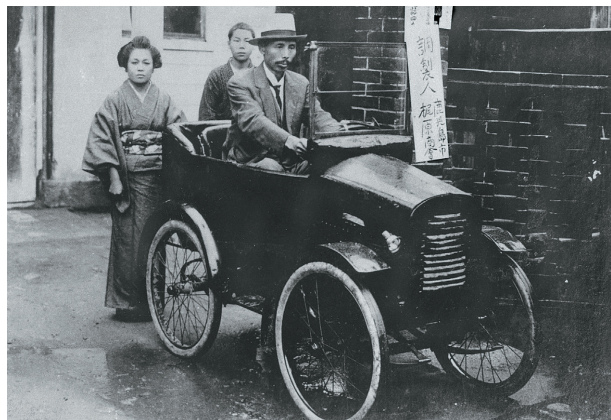




昭和初めごろに桑原病院の桑原仲右衛門先生が、岩川で最初の自家用電気自動車に乗るようす。



庭木の手入れはすべて自分で行き、庭師に頼んだことはない。



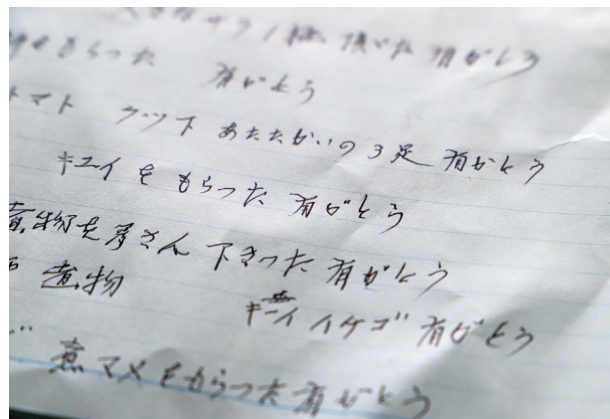
自宅にある畑へ軽やかに歩く。畑や通路は手入れが行き届いており雑草も生えていない。



畑の管理は毎日行う。多くの種類の野菜を栽培しているため野菜を買ったことはない。



毎晩ノートに書いている日記。ぎっしりと文字が書かれている。



姪が持って来てくれたおかずのメニューを記したノート。文の終わりには必ず「有がとう」の文字。



第85回 実は隣のスゴイ人

【今回のスゴイ人】

なかざき

中崎ナミヨさん

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。前回のスゴイ人、澤俊文さんにご紹介いただいたこの方は「元気でやる気のあるスゴイ人」とのこと。

今回は、大隅町にお住まいで100歳の中崎ナミヨさんに話を伺ってきました。

長年助産師として大隅町を中心に多くの出産に立ち会ってきた中崎さん。大隅町の桑之迫地区出身で、地元の尋常小学校高等科を卒業。その後岩川で親戚が経営していた桑原病院の薬局で働いていました。

「その時に父が『産婆学校へ行きなさい』と言って鹿児島市の学校に行かせてくれました。後になって考えると田舎からよく学校に行かせてくれたなあと感謝しています」

学校では昼に助産師の授業、夜に看護師の授業を受け、その合間には毎日図書館に通い詰っていたそう。「教科書を丸暗記するつもりで勉強しました。そのおかげで早く資格を取ることができました」

18歳で助産師となった中崎さんは結婚後も87歳までその仕事を続けました。

「昔は『産めよ増やせよ』の時代で出産が多く飛び回っていました。納戸のすんくじらや、ろうそくの火のあかりで取り上げることもありました」

医者がいない環境での出産に、赤ちゃんが亡くなってしまうこともあったそう。

4月に101歳を迎える中崎さん。一人暮らしで洗濯・掃除など身の回りのことは何でもされています。時間があると夫が生前残してくれた数字パズルの切り抜きを繰り返し解いたり、自宅にある畑の管理や、はしごに登って庭木の手入れをしています。「本や新聞を見ていいなと思った言葉をノートに書いています。姪っ子が持ってきてくれるおかずのメニューや日記も書いています」

日記には畑のことも書かれており、見返して野菜を植える計画を立てているそう。さらに車の運転もしている中崎さん。3月で免許証を自主返納する予定ですが、眼鏡をかけずに針の穴に糸を通せる視力があります。

「畑の管理や庭木の手入れなど仕事が多いから退屈しない。仕事で元気のもと。体に痛いところがないからありがたいです」

感謝の心を大切にしながら、これからも元気に働いていきたいと話してくれました。